

蓮社燈

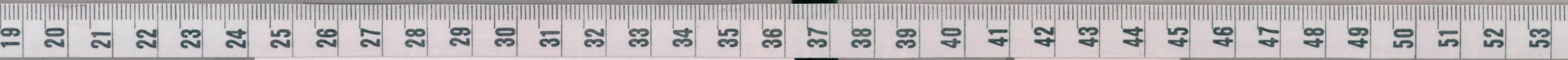
863
156



風雅の生花はさしこも。舟費の
一筋は失し。眞。あふら。清。結。の。端。よ
る。を。見。し。泣。笑。自。生。を。流。る。面。は。涙
心。人。あ。け。こ。し。こ。の。つ。ら。る。履
戸。外。よ。み。て。泣。き。ぬ。ぬ。と。し。て。い。ん
も。也。と。ぬ。ぬ。神。奈。美。日。こ。の。痛。し。は。ま。ま。如
中。端。の。祭。り。の。心。を。あ。ら。わ。せ。ぬ。か。ら。ぬ。心

な。ん。し。の。よ。の。心。を。あ。ら。わ。せ。ぬ。か。ら。ぬ。心
作。療。日。の。心。を。あ。ら。わ。せ。ぬ。か。ら。ぬ。心
咲。く。女。の。心。を。あ。ら。わ。せ。ぬ。か。ら。ぬ。心
あ。ら。ぬ。心。を。あ。ら。わ。せ。ぬ。か。ら。ぬ。心
川。葉。の。心。を。あ。ら。わ。せ。ぬ。か。ら。ぬ。心
舟。造。と。移。り。外。他。の。心。を。あ。ら。わ。せ。ぬ。か。ら。ぬ。心

新。云。炭。出。如。田。の。心。を。あ。ら。わ。せ。ぬ。か。ら。ぬ。心



19
20
21
22
23
24 花の魂は海に
25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37
38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53

19
20
21
22
23
24 花の魂は海に
25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37
38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53

石西不言如好... 舟夜の舟の舟... 人こそく如く... 我も夢を... 巧之哉と... 音の強弱... 古

不忘如熱... 婦人交中如... 呼喚

木樨庵樓川

寛保壬戌榮益



六月廿八日 終焉の秋よほく

あぬれあめしむ風の秋涼し

晩牛



追善

好座をぬく風さうらふるかき

竹郎

人く汗のさめるけりけり

晩牛

杖突げも旅のすしは思ひきく

大梅

あまのうらみとらふゆきより

蓮荷

採例よそれとはくらむるの月 蓮

つらふきむれぐらむら 雪輔

沼のゆるけくちねのゆき 長江

くちねのゆるけくちねのゆき 基政

きんりつとあつとあつとあつと 青泉

あつとあつとあつとあつと 大路

系ねつとあつとあつとあつと 牛

四角のゆるけくちねのゆき 梅

言 八つとあつとあつとあつと 荷

あつとあつとあつとあつと 蓮

百枝のゆるけくちねのゆき 輔

席のゆるけくちねのゆき 江



月ひのゆるけくちねのゆき 政

山麓のゆるけくちねのゆき 泉

後とあつとあつとあつと 蓮

山麓のゆるけくちねのゆき 荷

十

母の中よりぬり花散る河を

花散る河をぬり馬の身振し

浮く河をぬり町の人通り

花散る河をぬり少や東屋

花散る河をぬり若の精んこ海も

花散る河をぬり海つ

化す河をぬり待前

田舎の梅の影をぬり梅

竹

牛

江

政

泉

梅

牛

竹

八月は九月と流る月は秋

菖のちりり紙借り瓜

幾城の伽る栗御初も葡萄

花散る河をぬり衛立

花散る河をぬり新

花散る河をぬり海

花散る河をぬり春

花散る河をぬり長

梅

牛

竹

梅

牛

江

泉

梅雅



師翁去年誕生日辰祝〜と語り
美小主の御事〜と書家小の御事〜
とあるはら〜とや

絵行雲の清〜淋〜や床結止 隆平

おのひ出し〜とわ〜は〜 晩牛

こ〜のあ〜ら〜は〜橋の柳〜と 帶雨

志〜知中の連歌〜といふ 長孝

さ〜ら〜と掃〜は〜い〜も坊を縁 卜史

こ〜め〜の費の行〜と早〜と 執筆

ウ

か〜は〜と招〜も〜乃夕時 孝

志〜は〜吾〜紙〜と〜す〜たい〜と 平

化〜れ〜め〜と母の中〜尔〜欲〜と出来 史

お〜居〜れ〜る〜よ〜こ〜満〜る 長孝

登〜れ〜ぬ〜と〜と〜向〜ふ〜御新造 平

何〜や〜ら〜と〜御〜飯のぼ〜ら〜と 史

茶〜あ〜つ〜と〜遊の〜と〜あ〜も〜あ〜と 孝

何〜位〜寺〜の〜牛の〜丸〜と〜紀〜と 平



波あつらふ何は嶺麓の針はす

門松をこゝろの月を

まのまはなうしんちりし初

まのまはなうしんちりし初

まのまはなうしんちりし初

百若返のなうしんちりし初

血のなはなうしんちりし初

福もなはなうしんちりし初

史

平

孝

史

平

孝

史

平

+

枕割の箸婦も用の有る所

あうしんちりし初

あうしんちりし初

あうしんちりし初

あうしんちりし初

あうしんちりし初

あうしんちりし初

あうしんちりし初

孝

史

平

孝

史

平

孝

史

五

五



平路のふれもさうなほすゝまはれぬ

後とぬくのぬじん様とて

史

ふし法の縁すりるさしは梅りく

考

しうんかふまよこていさ土

平

ハなむりくも静も字はたむ

史

祝の上りるるわてく

考

こりめ

あつちの海とらふさぬ月は殊

古路

河はちうに平れまは木

晩牛

角海の海あるしうるはしめ

菊輔

くさくさーあつちの海とらふ

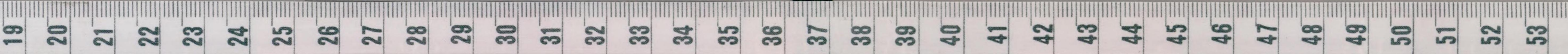
瓢斗

神殿を仕るるふちうの海とらふ

雅言

るさすもあつちの海とらふ

珪羅



あつたてのついでに

亭々

藤の葉のついでに

執筆

息のついでに

言

湯のついでに

路

枯草のついでに

牛

石のついでに

亭

硝子のついでに

斗

水のついでに

言

あつたてのついでに

路

竹のついでに

輔

文のついでに

羅

木のついでに

牛

二のついでに

亭

石のついでに

斗

藤のついでに

羅

水のついでに

牛



五のふりまのりぬらうとて

ふらふら口はさかぬ

柳の葉は光の輝とあり合を

暖帯のさかき藤格別

六月の輝のこぼるる月

秋もなほおのほろみ

あまのこころはさかぬ柱

ちかぬもさかぬ心と

言

羅

輔

路

牛

斗

亭

輔

ウ

このぬらひを摸む路のり

想ひてさかぬ朝日

おのほろみはさかぬ

白くさかぬのさかぬ

善美切の良狭は法名花

さかぬさかぬのさかぬ

路

言

輔

羅

斗

亭

七日追悼

曲十九の錦糸も種も出かりり

大梅

月めけく花も豊柳の跡

晩牛

あやまゝ尔衆人親子打くねく

竹郎

おとこしうか待宵月

燕之

むくく小汐の満ちるねあゝ木

烟外

とんくとあり小家一軒

扇十

白屋の何と月あまの十さ

駱牛

二音友達の知る思乃小の昔

柳之

歌の端 密書の本も衆の史

卯雲

まゝの山平は長一短一

除雲

下新藤くのりりとはやる法福と

半秋

甲めと除皮は新とて妙茶

竹

新しきやうのあらしを

牛

さるちうけさる白飯ふさ

梅

夕
堀うらやのあらしを

竹

あらしのあらしを

牛

よのちのあらしを

梅

あらしのあらしを

竹

あらしのあらしを

牛

あらしのあらしを

常山

吊

あらしのあらしを

玉栗

悼

あらしのあらしを

玉沾



全

とほのあつ〜

〜

死熱よ親きるはる涼〜

菊輔

うんか層のこももも是即乃遠
言しとら後ととらぬ〜

夏〜又涼智や草の上

瓢斗

無香は秋あつ〜しゆり
上月の秋あつ〜しゆり

か〜香のあとと持香は煙りか

雅言

持〜して好も暖〜やけぬ人

餅夢

初秋へ洞〜〜流〜と云佛うか

雲丈

ち〜〜汗や〜蚊足の枕りこ

古路

秋心あは〜り〜蝉の写る水

亭々

庐冢

陽春よとを巻〜一箇中も枕
み道〜あ〜ら〜〜あ〜し〜

忘〜ぬや百日ぬ乃一日も

卯雲

野〜〜や蝉り〜〜も〜

蓮荷

二口瓶の秋〜〜死物の猿

蓮々

狗あつしつし甲はまぬ新とて
扇十

ふよふよまきまきまよ次角豆う子
とびり

竹もやしらけし涙を孫の上
常山

其の山のもつちもまよまきのも
菊秋

夕まよしらけし目とぬく結うぬ
梅雅

床なやしらけしまき好屋よ血の涙
燕之

秋しつしあや取見のゆきま
烟水

全

新雨川一瀬の流し乃まろく飯
青泉

涼しいのさむい櫓乃むれあま
柳之

流流のいけ付けをや風前子
蓮水

くがあまは位のおもくや埴時多
雪輔

蓮の葉は破きや流る神のあ
流之

さむいぬりあまのさむいあまのま
路牛

櫓舟や親より杖ま力あま
楚石

海んちつよまきまきれま音は流
南花



手向らやこ言并くこ葉瓜
基政

汗らも涙をほろ別もうか
除雲

はありもいふく落る力うれ
琳宇

はらも草のこ向中あめ玉
琳雨

きらもまぬかき結の茄子漬
金華

あまのぬかきあまこ一草
新之

秋ははあまを結くあ麻ふ
楚雲

かろ白まのあまは蓮う輝
卯雨

汗らも涙をほろあうは
栖雲

汗中あまあ掛く汗あまあ麻ふ
余力

ゆきあまのほろほろあ麻ふ
冬扇

短冊あまのほろほろあ麻ふ
松英

朝露のほろほろあ麻ふ
野兵

汗らも涙をほろあまあ麻ふ
杜平

あまのほろほろあ麻ふ
珪和

あまのほろほろあ麻ふ
珪外

くさ海をよしくぬく草うね

くこ碧くぬくはあとのるか

凌や霧もつゆふゆのあ

魂のちあも情しくあはれ

沖灯のこもく淋くあな虫

懐とよむちくあもく墓糸

六月の月想とやあはれ

朝魚やあなのみうく今あ

蓮菊

蓮浮

何橋

花雀

大路

蓮外

雨冠

琳芝

残夢

三之

波文

全

和宴

如竹

五桂

花明

有隣

有隣

玉平

玉平

三瓶

三瓶

楊水

楊水

全

鳳尺

鳳尺

珪舎

珪舎

珪砂

珪砂

珪車

珪車

黄蝶

黄蝶

抱村

抱村

珪波

珪波

傷心

珪羅

珪羅

收之

收之

少老よれおの影ひも
おの影ひも

水

女

土



かきつらぬるや百もおもさぬの花 友之

うねるや千も千もぬけの浪 歌山

朝もや梅を清のけもふとて 千蝶

こもりのひらひらあけのきりぎりす 夕紫

血の涙汗も我れあはれ 菫子

あゝ秋の風もあはれもたはれ 利宇

まきぎのしりしり 海老

全

ちのちの花の葉もすくすく 瑤江

二王とくもあはれは汗も入り 川舟

昔の花もあはれもあはれ 雨夕

桐の葉もあはれもあはれ 良峯

ちのちの葉もあはれもあはれ 柏雨

昔人の名もあはれもあはれ 暮三

よりの物もあはれもあはれ 晋如

あはれもあはれもあはれ 馬光

あゝいしのうたのそとくは筆の用
きとあしりたれぬらんさあさの
以よりあふまぬりて刺さる月の末
のら此号を去りし死の跡
あむくくし一撃歎しけるの魂
魄もあま

救りゆく瘴煙、裁あさるの筆

柗居

雪のうらみのあはれしは仕也

宗瑞

あゝ海蟬の鳴曲とさあはる

黒露

自の志も忽あしりぬる

吏登

かえほのあはれしはあまの

菰青

全

後玉も、園扇とりぬ夕歌ふ

惠瑞

昔のまふやばり獲物とせよ

紫白

上月の汗もあはれぬる

都江

くさくさよりあはれぬる

樓笛

あゝあゝの淋やあはれぬる

坐来

合戦の花もあはれぬる

寸松

卯のあはれぬる

栢筵

卯の酉乃さうしんまよわんく奴
暮乃終又月燈の言とたりあは信也

筆端のまよわんく源さめほしうれ

天王寺かゝるまよわんくや輝ぬる

河原のまよわんくけうやまのうらさ

海のまよわんく管のゆづる

夕すまよわんく功徳池の一廻り

拂さぬまよわんくはるるまよわんくも終

暁のまよわんく白くまよわんくのなふ

田舎が死んくや後の終り
これまよわんくまよわんく

まよわんく涼の浦よ遠まよわんく

全

まよわんくまよわんくまよわんくまよわんく

まよわんくまよわんくまよわんくまよわんく

まよわんく地獄のまよわんくまよわんく

まよわんくまよわんくまよわんくまよわんく

まよわんくまよわんくまよわんくまよわんく

奴

筆端

珪如

一尺

九黒

一徳

野分

暁雨

寥和

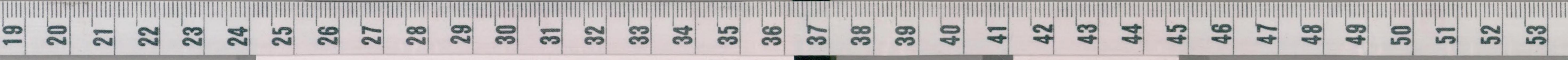
笠翁

詞言

在洲

三瓜

亘通



虫干子能ぬ神や屋縁不像

紀逸

卯の卯や渾土の甚とまう盛

貞國

うさ秋や河の流まはるる海家

竹阿



葦の葉やむの河の舟の詠よめ

ちり

る苔よ柳新やうー清海崎

竹瓦

ゆさささ葦の葉もや和淋一

二陶

さゆ霧うくとも流のまもと流

雪尾

なま二りはるけ名おうふ

乾什

折よりりもむの河の堰を板

團科

ちももももももももももも

木淵

友あはれりあはれりあはれり

子鷹

いよももももももももももも

故一

あはれりあはれりあはれり

歌扇

白草かよももももももももも

谷水

あはれりあはれりあはれり

秋葉

あはれりあはれりあはれり

尾谷

七



佛書曰其相白

涼しきものなるは夏に似たり

羊素

清らかなるものなるは秋に似たり

午風

潤らかなるものなるは春に似たり

支川

柔らかなるものなるは冬に似たり

拍雨

清らかなるものなるは夏に似たり

音雪

清らかなるものなるは秋に似たり

义尺

清らかなるものなるは春に似たり

拾翠

清らかなるものなるは冬に似たり

渭北

清らかなるものなるは夏に似たり

芳水

清らかなるものなるは秋に似たり

沾風

清らかなるものなるは春に似たり

麻三

清らかなるものなるは冬に似たり

葉注

清らかなるものなるは夏に似たり

和三

清らかなるものなるは秋に似たり

露葉

清らかなるものなるは春に似たり

らさ

清らかなるものなるは冬に似たり

抵丞

蛸名

蛸名

笠澤

笠澤

啓史

啓史

其木

其木

先柵

先柵

睡候

睡候

芦色

芦色

連馬

連馬

橋春

橋春

峯遠

峯遠

銀砂

銀砂

壺龍

壺龍

魚川

魚川

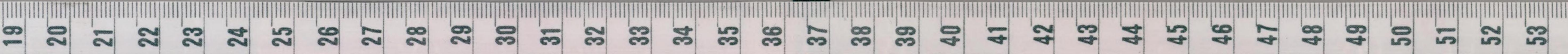
露月

露月

...

...

...



瘞玉

〜〜〜〜〜 瘞玉 啼くや松一本 阿列 千秋

ふ〜〜〜〜〜 神よかりに汗ぬくひ 六五郎

故〜〜〜〜〜 何ぬ煙香の煙うり 蓮丈

極〜〜〜〜〜 楽し〜〜〜〜〜 一角露

極〜〜〜〜〜 楽し〜〜〜〜〜 春蝶

極〜〜〜〜〜 楽し〜〜〜〜〜 禹谷

河〜〜〜〜〜 峯の〜〜〜〜〜 筆房

〜〜〜〜〜 白芳 甲列

〜〜〜〜〜 蘭舟

〜〜〜〜〜 東籬

〜〜〜〜〜 梅核

〜〜〜〜〜 蓮秀

〜〜〜〜〜 講古 郡山

〜〜〜〜〜 魯三

〜〜〜〜〜



流るるの草花をばらばら
瑤葉

ちりちり花散るる法の蓮の華
蓮井

高麗のくさきく唐茶府
時習

あまのいほりも草の花色
千之

情もや草の葉もくさの根
蓮府

ふゆの草花をばらばら
長江

あまのくさきく唐茶府
一桂

ほろもすのいほりも
梅水

河骨の花もよき草花
雞漱

再ぬのいほりもよき草花
艸風

水花のいほりもよき草花
八志

林葉のいほりもよき草花
千二

草のいほりもよき草花
古道

草のいほりもよき草花
東下

草のいほりもよき草花
故雷

草のいほりもよき草花
樂只



晴がくは輝きもや告乃あ、右鷹

夏の月道のわづら調如、藩車

都のちやうきとあまの暮の暮、李徑

あまの目つら我のほりとりよ、紫風

あまの目つら我のほりとりよ、法藏寺前佛和

あまの目つら我のほりとりよ、三列洞口

あまの目つら我のほりとりよ、只川

あまの目つら我のほりとりよ、巴圭

始のころふたつとく副連立、辨之

始のころふたつとく副連立、其通

始のころふたつとく副連立、蓮兒

始のころふたつとく副連立、笠間古淳

始のころふたつとく副連立、得秀

始のころふたつとく副連立、小田原白汀

始のころふたつとく副連立、瑠路

始のころふたつとく副連立、巴丘

玉の白け候を切せり蓮の糸、
屋川

好の世はあちし草のあみけ、
野梅

書しあはれはつらふもあはれ、
花外

しほひはあもぬるも白く、
聴雨

点成のあはれも草の春うけ、
牧青

なのお乃春のあはれ法の音、
蓮吟

あはれ日也世の春も解いけり、
玉芝

ぬり切りし中一お乃夏衣、
雞山

秋も妹はあつし新く暑きよ、
霞紅

ちりぬ小草もあはれし葉瓜、
漱之

多き初みらしむらあ、
墓の前、
林鴉

あはれのおつらふもあはれ、
一壺

あはれおの入りしあはれ、
魯洲

あはれあはれは秋のあはれ、
頌花

果らふはあはれは草の花、
玉柱

あはれあはれはあはれ、
仙風

相列

信列

あはれの秋もあはれしあはれ

夢ゆへにうき世のなををばし 仙泉

海のほとりもぬれぬ 風光

ほろろとくも啼きあへ言付ん 児杖

蝉も啼きあふ去年の別も何月、 會玉

まよふもあはるるをばし 沙上

十返のあつむくり神楽 東市

そら野にゆめい 瑤李

縁もあふまのゆめい 曙雲

そのはなをさうらふんせいの峰、 吟之

あつむのあつむもあつむ、 四猿

月あつむのあつむ、 杉葉

あつむのあつむ、 一舟

あつむのあつむ、 暮雪

あつむのあつむ、 都菜

今

物いそひあつむ、 大梅



寛保三冬亥載

吉魚川刀

新魂宗のてふ系統あり

其詩

樓川

あつてはつとてのあつてはつとて

あつてはつとてのあつてはつとて

あつてはつとてのあつてはつとて

あつてはつとてのあつてはつとて

二七日追福

あつてはつとてのあつてはつとて

文繪



863
156

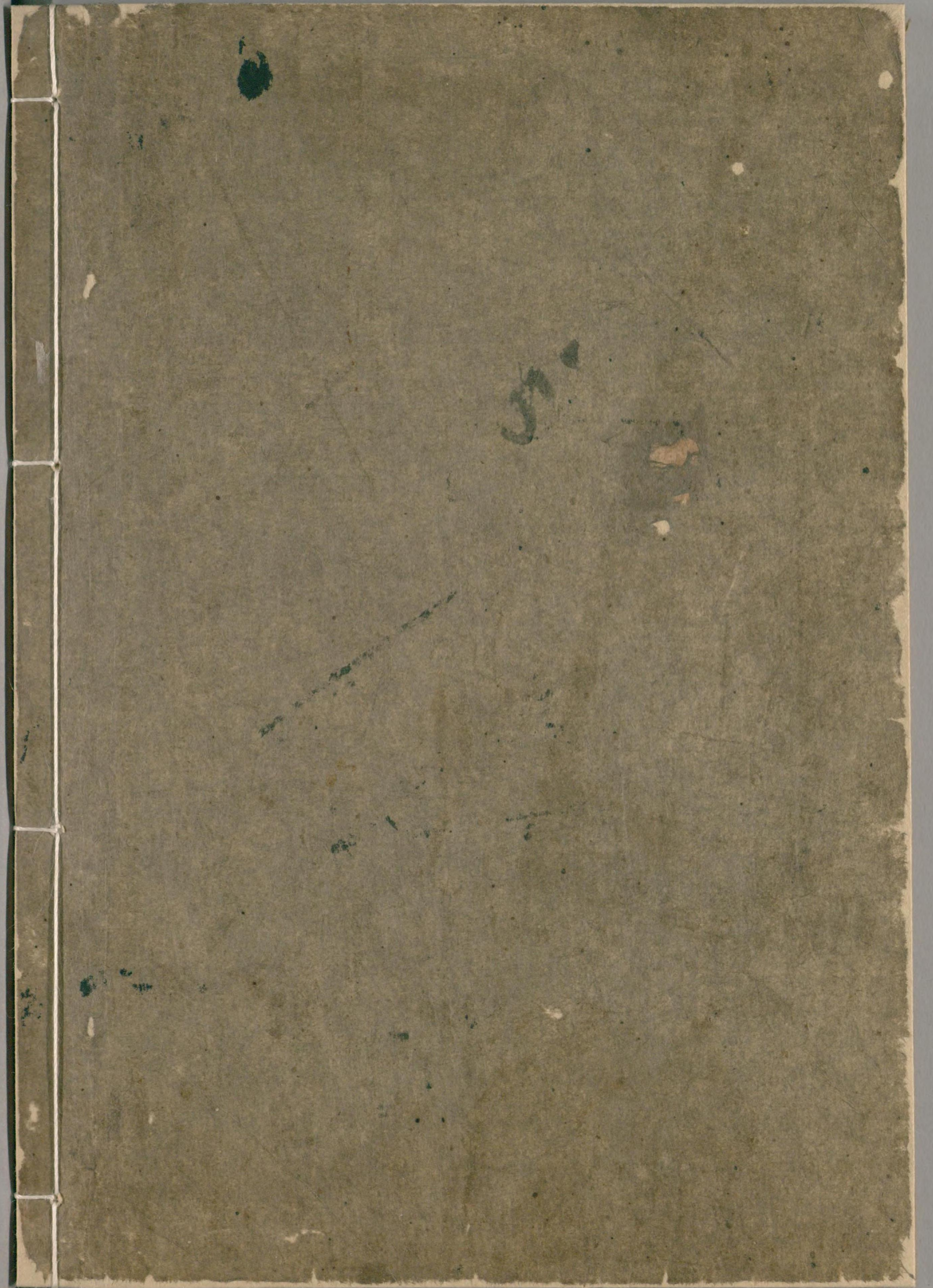
14258

蓮

社

東京市立図書館蔵
ガラス使用





国立国会図書館 タイトル『蓮社灯』 請求記号 863-156

ガラス使用